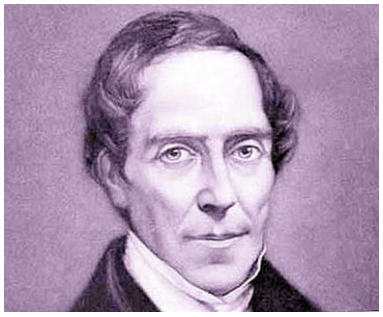
＜口腔の役割＞

マンテル医師と１本の歯

およそ 200 年前、イギリスの医師ギデオン・マンテルは妻の協力により、歴史を大きく変える歯の化石を発見します。黒光りする５ｃｍほどの見慣れない形をした１本の歯。マンテル医師は巨大な植物食動物のものと確信し、化石を地質学者に送付しましたが、哺乳類のサイの歯だろうと送り返されてしまいます。マンテル医師はこの鑑定に納得できませんでした。19 世紀初め、イギリスは世界で最も科学が発達していた国。あきらめきれず、その後も調査を続け、この歯は“イグアナ”の歯にそっくりなことを突き止めます。マンテル医師は歯の化石一式を再送。これが科学者たちの考えを大きく覆します。科学者たちは歯の化石が、巨大な植物食爬虫類のものと認定。マンテル医師は世界で初めて、後に恐竜と呼ばれることになる化石の発見者として地質学会に認められ、この化石の巨大爬虫類は“イグアノドン“ と名づけられました。

その後、世界各地でさまざまな恐竜の化石が発掘されることになり、今日に至ります。この１本の歯の発見が無ければ、あの有名な恐竜映画やテーマパークの行列、子どもたちに人気の恐竜図鑑、博物館の恐竜展が休日に親子連れで賑わうことなど無かったかもしれません。この絶滅した巨大生物に魅了され、壮大な夢を描く恐竜ファンは大人も子供も関係ないようです。



ギデオン・マンテル（英）1790～1852

マンテル論文のスケッチ（1825）
イグアノドンとイグアナの歯の比較

ところで“イグアノドン”は「イグアナの歯」という意味があります。
”ドン“は「歯」を意味し、他の恐竜では”トラコドン“は「荒々しい歯」、”アストロドン“は歯の断面が星型なので「星の歯」、翼竜”プテラノドン“は「翼はあるけど歯が無い」の意味になります。さらに“ドン”は恐竜だけではありません。”フグ“は「4本の歯を持つ」ことからフグの分類でも”テトラオドン“が使われます。クジラや昆虫のトンボも同様、古代生物に限らず、実に多くの生物が歯をもとに名づけられています。

さて、みどり市に「コノドント館」（みどり市大間々博物館）があります。この“ドン”もまた「歯」に関係します。“コノドント“は「円錐状の歯」を意味し、恐竜が生息していた時代よりもさらに昔、海中に生息していたウナギに似た生き物の消化器官の一部とされています。大きさがわずか1ミリにも満たないといわれるコノドントの化石の実物や、恐竜の頭部の模型が展示された自然展示室、さらに大間々町ゆかりの古い民具や資料が展示された民俗、歴史展示室から成り、大間々町の自然と歴史を再発見することができます。
歯はとても硬く、風化に強いため化石として残りやすいといわれます。我々の歯も、虫歯にならぬよう歯の健康に心がければ、何億年も先に発見されるかも知れません。

コノドントの拡大模型標本（コノドント館所蔵）
コノドント館みどり市大間々博物館
https://www.city.midori.gunma.jp/conodont/

【歯科口腔外科診療部長　今井　正之】